



育成委員会 中長期計画(案)

2024年度



2029年度

特定非営利活動法人
日本デフバスケットボール協会

ゼネラルマネージャー
須田 将広



命題: サインバスケで世の中を変える！

なぜサインバスケ？

サインバスケで「対話」を深めるため

どうやって変える？

サインバスケを末端会員まで啓蒙する

どのように実践？

サインバスケを実践、常に「対話」が続く現場をつくる

周りからの理解は？

周りを巻き込み、交流を深め、信頼を得る

どうやって継続？

デフバスケの発展を担う後継者をつくる

目に見えるサインなら、聴者も難聴者も人工内耳者も誰もが、デフと**【対話】**ができる

【対話】からデフバスケならではの練習における指導方法と試合における戦略が生まれる

声出しバイオレーションで視覚を活用した今までにないバスケ競技を楽しむことができる



どうやって変える？

サインバスケを末端会員まで啓蒙する



協会内部からサインバスケを啓蒙し、末端会員まで浸透させる

- 渡米報告がその第一歩！2023年9月に福井県で実施した内容をメインに啓蒙開始
- 外部(スポンサー、協賛企業など)にも積極的に展開、理解をもらう

デフ選手に指導したいコーチや審判、手話通訳者が出で(増えて)来ると予想

- そのときにサインバスケの完成度や指導方法が未熟だと持続性を保てない
- 対応策として、「デフバスケたまごっち講習会」を育成委員会主催で進める！

どのように実践？

サインバスケを実践、常に「対話」が続く現場をつくる



■ デフバスケでレベルの高い実践場所は日本代表である

- A代表は強化委員会主導で進める
- U12～U21は未成人の育成も含めるため、育成委員会主導で進める

■ 実践の記録を残し、全国へ共有する

- サインバスケや手話の特性を考慮すると、動画は必須
- 媒体はホームページを中心に、SNSなどで広報していく
- 声出しバイオレーションも現場で実践・記録化して、共生社会の可能性を探る

周りからの理解は？

周りを巻き込み、交流を深め、信頼を得る



JBAやBリーグ、エルトラック等に実践報告を続け、【対話】まで漕ぎ着ける

- 元コーチ、元プロ選手から戦略や指導を受けて、サインバスケとの融合を試みる
- これを元に意見交換を活発化し、サインバスケの昇華 やデフバスケ競技の発展 に繋げる

全国の地域バスケ協会に協力呼びかけと地域活動に参画する

- 隠れているデフ選手の情報を求めていると呼びかけ、その経緯でデフバスケへの理解も広がる
- 地域のイベントにデフチームやデフ選手が参加する機会を増やし、デフバスケへの知名度を上げる



デフとしての自覚を促すところから育てる

- 「耳に欠損がある、聞こえの程度を数字や等級で示す」と医学的な言葉で終わるのではなく、「目で情報を効率よく得て生活やスポーツ・仕事に活かせる」と自らアピールしていく
- このようなデフ選手が増えてくると、デフならではの行動力やアイデアが磨かれていく！
- これがデフバスケの発展に繋がる

先駆者と後継者が交流できる場をつくる

- デフバスケの持続的な発展は、定期的な交流の場をつくることで実現できる
- 場所と習慣を意図的に進められる環境として、デフバスケたまごっち講習会を開催する

育成委員会 中長期計画(2024年～2029年)



命題

必ず実現

サインバスケで世の中を変える！



ミッション

育成委員会の理念

サインバスケを通して、社会と【対話】ができる環境をつくる
サインバスケで置いてけぼりのない共生社会の実現に貢献する

ビジョン

2029年の目指すべき姿

全国規模のデフバスケたまごっち講習会を **年1回** 以上開催して、
デフ選手に深く指導できる{指導者、審判、手話通訳者}を **5名** 以上育成

バリュー

委員の行動指針

理念を率先して体現し、常に「**※Deaf**」として行動する
デフバスケの現場(大会、練習など)では、常にサインを自ら意識する

※Deaf…主に視覚を活用した対話で社会生活をしているデフ



2024

たまごっち講習会
U21選考・強化合宿
U21世界選手権

2025

東京デフリンピック

たまごっち講習会
U21選考・強化合宿

たまごっち講習会や選考
合宿を通して、U21監督
等を選出する



デフォーチの質を
底上げしていく

2026-7

たまごっち講習会
U21選考・強化合宿

デフチームごとに
コーチが在籍する

2028

たまごっち講習会
U21選考・強化合宿
U21世界選手権

この時点
で
デフォーチ
5名以上達成

2029

パリデフリンピック
たまごっち講習会

国際大会ベスト4以内

U21としては、2029年デフリンピック初メダル獲得が目標

引退選手たちを
デフォーチに
取り入れる

育成委員会の主な事業



01

デフバスケたまごっち講習会の開催と運営

- デフ(Deaf)としての自覚を促す
- サインバスケットボールの探求と啓蒙
- デフ選手を深く指導できるスタッフの育成
- 現場でクレオール学習とワークショップ

02

アンダーカテゴリー選手の発掘と育成

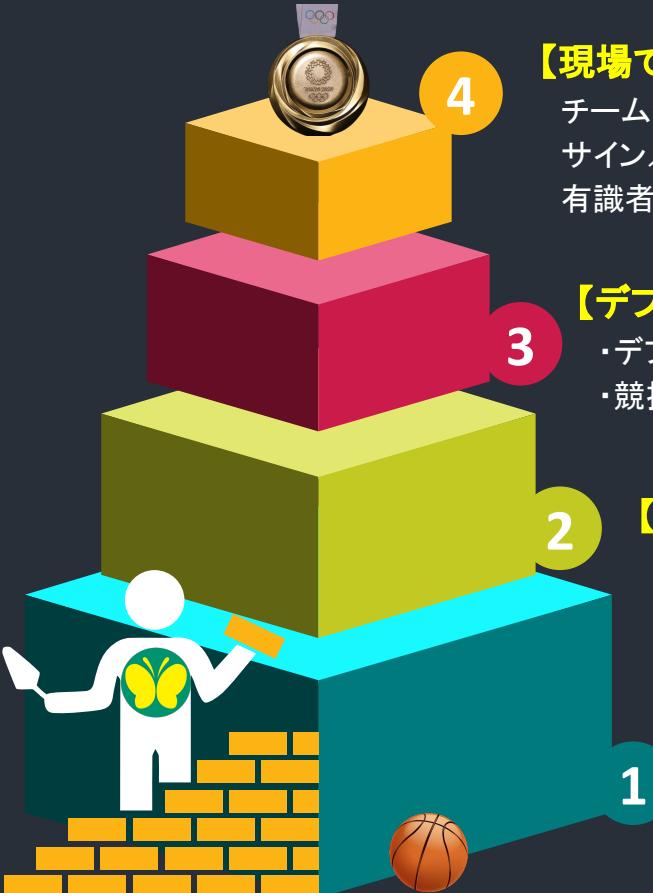
- U12から早期育成し、国際経験豊富なデフ選手を増やす
- 全国各地のバスケ協会との連携(メインは情報共有)

03

デフがルールをしっかり学べる土台をつくる

- デフがルールを正しく理解して、大会で笛を吹けるように、 有識者・経験者から学べる環境を用意する
- デフを対象としたJBA公認ライセンス取得支援(指導者・審判)





【現場でクレオール学習とワークショップ】

チームを指導者でドラフトし、**声出しバイオレーション**を導入したゲームを通じて、サイン／指導／審判を現場方式で学び、国内外の公式な大会など本番に備えて有識者のアドバイスをもらったりして経験を積む場を提供

【デフ選手を深く指導できるスタッフの育成】

- ・デバスケ選手に指導ができるようになるための講習会を開催
- ・競技ルールと指導方法について知識を深めるため審判とコーチングの勉強

【サインバスケットボールの探求と啓蒙】

デバスケ関係者(選手、コーチ、手話通訳者など)で、用語・練習・試合のそれぞれで使える「サイン」の探求と、啓蒙と理解を目的とした講習会を開催

【デフ(Deaf)としての自覚を促す】

デフフッドとアモンズレポートからサインバスケが生まれたところから、自分自身とデバスケの関わり方を再確認する



1

デフフッドとは「自分らしく生きる」ための成長過程を指し、それを学び、サインバスケにおいて「自分らしい、ワクワクするプレー」を文化言語モデルで導き出すことを目標とする。

2

アモンズレポートに書かれている「私たちはまず、デフなのだから」に対して、自分を肯定するような考察を立てられるようになることを目標とする。

3

バスケットボール競技はルールも全て日本語で書かれていることを理解して、デフバスケットボール選手として、サインバスケを通してバスケットボール競技とどう向き合っていくのかを考える。

4

デフバスケットボール日本代表選手として、デフとして日の丸を背負う選手としてどう自覚しているか、それを自分の言葉で話せるようになることを目標とする。

用語

常時探索

- ・バスケ用語をサイン化
- ・アメリカのサインをベースに、日本手話の特性を取り入れる(CL手法)



練習

現場探索

- ・練習で用いるサイン
- ・戦術に沿ったサイン
- ・チームごとに異なる



試合

現場昇華

- ・短い時間でたくさんの情報
- ・読み取られない工夫
- ・片手でも使えるか
- ・方向づけは可能か
- ・シンプルでユニークか



引継

共有公開

- ・繰り返し修正
- ・動画に収録・ナレッジ
- ・ホームページ、SNSで紹介



加えて、啓蒙目的の講習会を開催するなどして、周りからの理解を深める

下図のように、例として、長い日本語を『三角』のサインだけで指導ができるスタッフを育成する。
指導者、審判、手話通訳者として、サインバスケを中心に、それぞれの技能を学ぶ場をつくる。





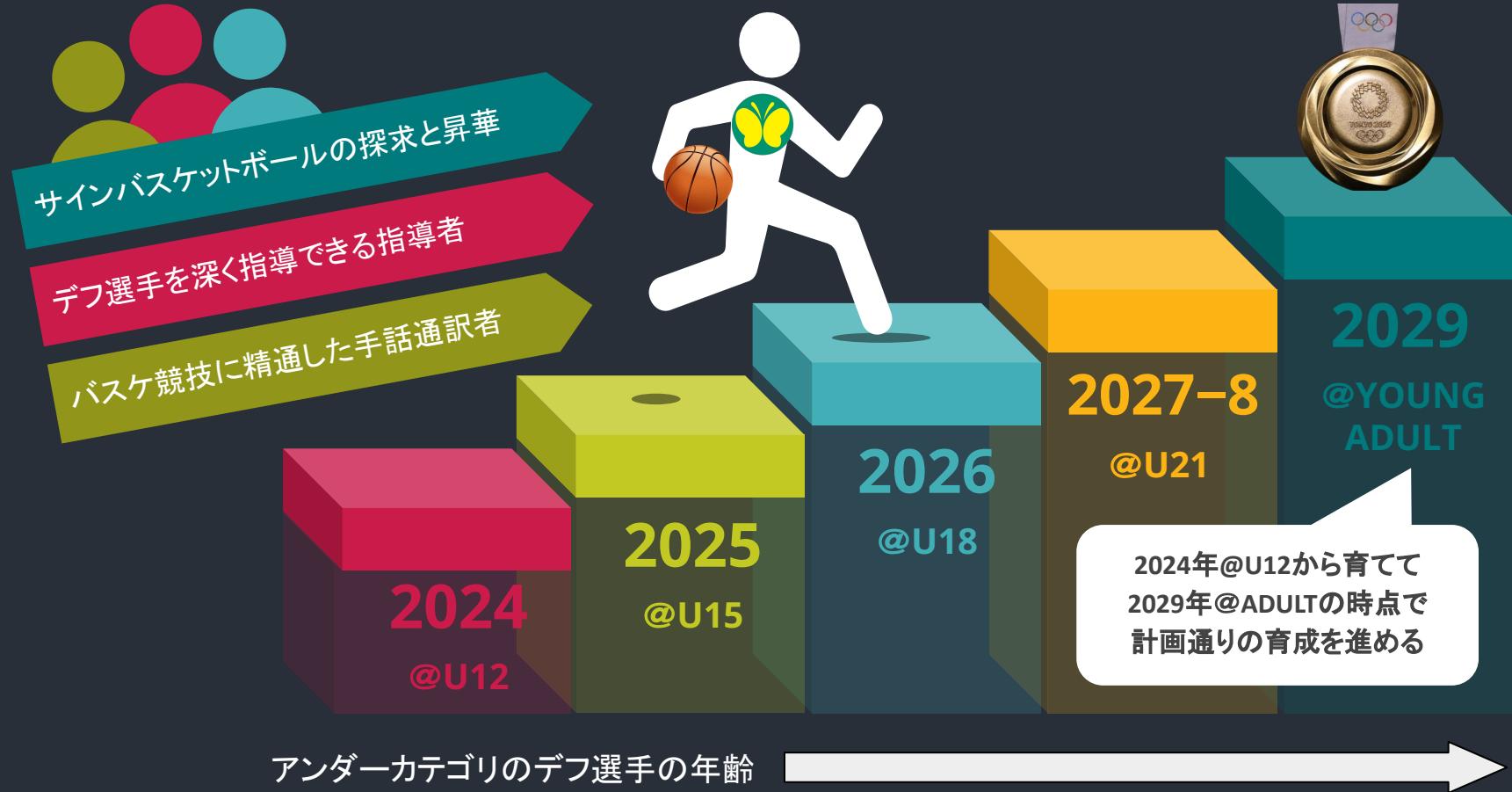
まず、

チームの戦略もしくは監督が定めるチームの約束があり、それを元に優先的にサイン化する用語などを決める。

これを現場(練習もしくは試合など)で作る、または、
スタッフ・選手同士で確認し合う場をつくる。

そして、実際に本番で使ってみて、実用性(把握のしやすさ、伝わる速度、正確さなど)をその場もしくは後でワークショップなどで確認し合う場をつくる。

02 アンダーカテゴリー選手の発掘と育成



2024年

U12

2025年

U15

2026年

U18

2027-8年

U21

2029年

ADULT

U12～U15は、ゴールデンエイジ年代は指先の神経が最も伸びる時期なので1on1スキルを中心としたメニューを作る

- ・アクロバット体幹を鍛える(逆立ち系)
- ・ドリブル
- ・パス
- ・シュート(特にフローター)

※全て片手で扱えるようになること

U18～U21は、ポジションレスで3D(ドリフト、ドラッグ、ダイブ)を入れた改進UCLAを軸に4out1inを展開するスマートバスケットを展開できるようになることでA代表に向けた準備ができる。

- ・3ポイントシュートを含む成功率を高める
- ・ゼロステップを理解したロバストを理解
- ・コンタクトを重視したフィニッシュ能力向上
- ・コンタクトのインパクト時の体幹の強さ

強化委員会直下のスタッフの方針に従う

JBA相談など具体的な方法は検討中

案1

JBAライセンス講習会の開催地でデフバスケたまごっち講習会を開催

- 参加者が両方の講習会を受けやすい状況を作る
- 金銭的な自己負担は比較的軽くできるが、暫定的
- デフがJBA公認ライセンスを持つメリットも確認

案2

ライセンス講習会の開催地の自治体(市役所など)に意思疎通支援事業やスポーツ場面手話通訳者養成講座を提案して地域を巻き込む

- まずは前例を作ってみることから始める





2023年度は準備に充てる

サインバスケのオリジナル教材を作る

1. 用語、練習、試合でカテゴリをわけて、それぞれのシーンで探求・昇華したサインをホームページに記載するなどナレッジ化
2. 実績のある講師の手配
 - a. 国際大会出場経験者
 - b. プロ関係者
3. 活動・作成資金の手配
 - a. 助成金申請
 - b. 寄付

2024年U21世界選手権出場に向けて

1. 2023年度内に出場の是非を確認
 - a. 対象選手とその保護者
 - b. JDBA強化委員会と理事会
2. 費用はどうするのか
 - a. U21選手団を作る
 - b. 保護者も一緒に活動
3. 保護者スタッフ制を導入
選手との関係性も考慮して
監督やコーチ以外で募集する

